

10 農林水産物等の輸出促進の取組

(1) 輸出の動向

東北の輸出状況は、りんご、りんどう、ながいも、米、日本酒を中心に増加傾向

農林水産物や食品の輸出については、「攻めの農業へ」と発想を転換した日本農業の取組として、近年急速に活発化している（表Ⅱ-64）。

表Ⅱ-64

我が国における主な農林水産物の輸出実績

（単位：億円）

	農林水産物		農産物		林産物		水産物	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
18年	3,739	13.0	1,946	9.8	90	▲ 1.6	1,703	17.7
19年	4,338	16.0	2,221	14.1	104	15.6	2,013	18.2

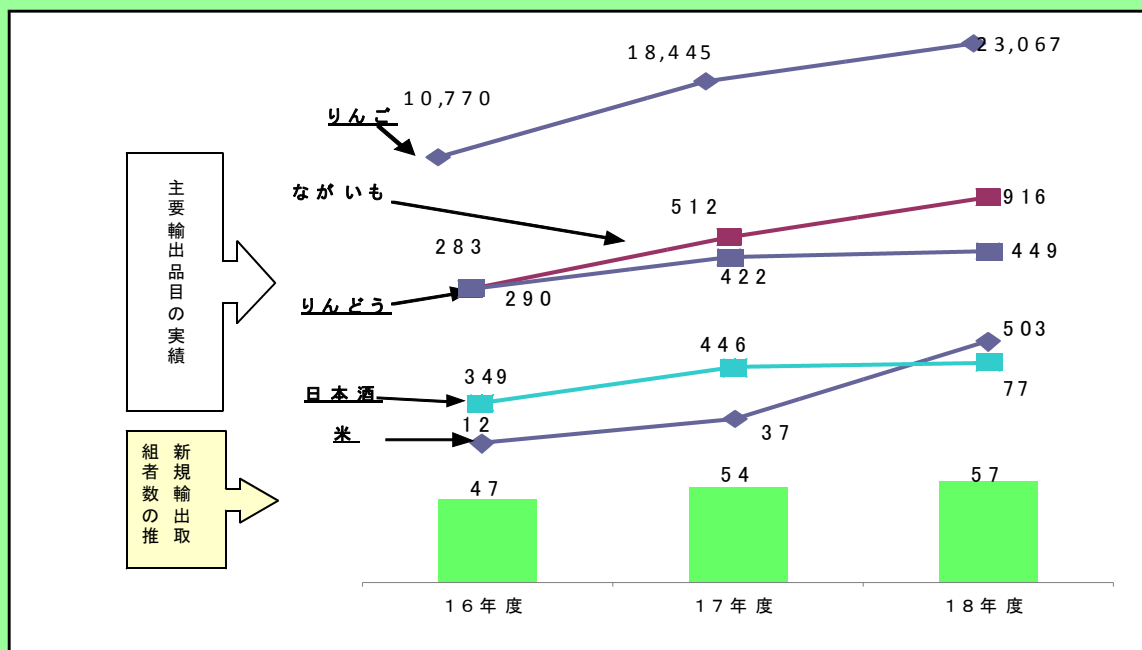
資料：財務省「貿易統計」（19年は速報値）

東北においても、東北の豊かな自然から生産される、りんご、ながいも、コメ、りんどう、日本酒といった多様で高品質な農林水産物や食品を、主に東アジア諸国へ輸出する取組が行われており、新規に輸出に取り組む生産者・食品事業者等が増えているとともに、主要品目の輸出数量が伸びている（図Ⅱ-42）。

図Ⅱ-42

主要輸出品目の実績及び新規輸出取組者の推移（東北）

（単位：t、kl、千本）



資料：県聞き取りを基に東北農政局で取りまとめたもの。（20年9月末現在）

注：りんごの対象期間は当概年9月～翌年8月、ながいもの対象期間は当概年11月～翌年10月である。ただし、日本酒は仙台国税局取りまとめ「酒税の輸出免税対象数量」。

事例

いちご新品種「もういっこ」、海外へ初輸出 [宮城県・亶理地区]

いちごの生産量で東北一のJAみやぎ亶理では、特産品のいちごのブランド化を目指し、宮城県が仙台いちごの新品種と位置付け平成17年に開発した「もういっこ」を香港へ輸出する取組を開始した。同品種は、果実は比較的硬いため日持ちが良く傷みにくいことから輸出に向く品種といわれており、県、同JA及びJA全農宮城が三者共同で、この新品種を日本産果物の人気が高い香港へ輸出することとした。



出荷した「もういっこ」

第一便は、19年1月20日に同JAから成田空港まで300パック（300グラム／1パック、価格450～500円（1パック、成田渡し））が陸送され、1月22日に検疫を受け、23日に香港へ空輸した後、百貨店「香港そごう」で販売された。

その後、より円滑に輸出するための流通体制の整備を行い、5月13日から週1回300パックを3週に渡り出荷しており、現地では、いちごの人気が高く好調な売行きを見せている。

本格的に出荷を開始した19年産は、38人の生産者で2.4ha（同JA管内のいちごの栽培面積に占める割合は2%程度）栽培しており、今後、20年産で10ha、21年産で30haの増加を見込んでいる。

19年は輸送体制を整備するため第一便以降5月上旬まで輸出を休止していたが、20年は、1月～5月まで週1回と定期的に輸出する予定である。

輸出数量については、19年は1回300パックであったが、20年は1,000～1,500パックへ拡大する見込みである。

現在は、流通体制上、「香港そごう」の仕入会社へ成田空港渡しで販売しているが、将来的には現地渡しで販売するなどコスト削減を目指していく。また、GAP手法（農業生産工程管理手法）の導入を図り、安全な農産物の安定的な供給と環境保全に取り組んでいくこととしている。

特産の「もも」の輸出販路拡大を目指す [福島県・伊達市]

J A伊達みらい（大橋信夫組合長）では、特産のももを輸出することで知名度のアップを図り、国内におけるブランド化を進めることを目的に、平成17年度から台湾へももの輸出（約35トン）を開始し、平成18年度には49トン、19年度には51トンと海外向けの出荷量を増やしている。

同J Aでは、更なる輸出販路の拡大を図るため、果実と野菜専門の国際見本市にもも等を出展した。



出店ブースの様子

ドイツのイベント会社とイギリスの企業の共同主催で世界24か国が参加し、果実と野菜専門の国際見本市「アジア・フルーツ・ロジスティカ」が、アジアでは初めて19年9月5日～7日にかけてタイのバンコクで開催された。

J A伊達みらいでは、地域特産のもも「あかつき」、「川中島白桃」、「ゆうぞら」を各20ケース（1ケース5kg）と、ぶどう「巨峰」3ケース（1ケース5kg）を空輸による二日間の輸送で出展した。

出展ブースは、富士山や浮世絵など「日本」をイメージできる縦1メートル、横2メートルの大型ポスターを中心に日本情緒を感じさせる雰囲気をつんだんに取り入れたディスプレイとするなどの工夫を行った。

また、会場では浮世絵の美人画をあしらい、ももの色が映えるよう黒を基調としたデザインで、英文でJ Aやももの説明を加えたチラシ1千部を用意し、来場者に配布しPRを行った。

今回の出展は、ももの鮮度保持の試験も兼ねた取組でもあり、「あかつき」、「川中島白桃」は収穫したものを凍る手前で冷蔵保存し、品質の劣化を防ぐ特殊技術を利用し鮮度を保った。

鮮度保持の試験も兼ねた取組であったが、開催期間中の品質には全く問題は見られず、試食した各国の食品関連企業の関係者からの評判も良好だった。このため、新たな販路開拓につながることを期待されている。

同J Aでは、今回の見本市出展を機に今後、輸出代理店を窓口とした輸出販路の拡大と国内でのさらなる知名度アップ、ブランド化を進め、農家の生産意欲の向上につなげていきたいと考えている。

（２）東北地域の輸出促進の取組

相談窓口設置、商談会等開催、リーフレット作成等により東北地域の輸出拡大を支援

新たな「食料・農業・農村基本計画」では、重要な施策のひとつに位置づけられており、平成17年4月27日に設置された「農林水産物等輸出促進全国協議会」の輸出拡大目標に、5年で農林水産物・食品の輸出額を6千億円に倍増させることを掲げ、官と民が一体となった取組を推進している。18年9月には、この取組をさらに加速させ、25年までに1兆円規模とする目標が定められた。

東北地域においても、17年9月6日に、県、関係団体、関係省地方機関等45会員による「東北地域農林水産物等輸出促進協議会」（以下、「東北地域輸出促進協議会」という。）を設立し、19年6月15日に策定した「東北地域農林水産物等輸出促進戦略」により、「農林水産物等輸出相談窓口」の開設、東北産輸出農林水産物等を海外の消費者に紹介するリーフレットの作成・配付、海外を活動拠点とする国内外の食品バイヤーを招聘した商談会やシンポジウム等の開催による販路創出・拡大、普及啓発活動等、輸出促進の取組を行った。

（３）産地の売り込み

積極的に活動範囲を拡大する産地の売り込み状況

輸出に取り組む各県、各産地においては、輸出品目の積極的な売り込みが行われた。中国、香港、台湾、タイ、マレーシア等の東アジア及び東南アジアを中心に、それぞれの県が県産農産物を展示・商談・販売する活動が行われるとともに、ドイツ、アラブ首長国連邦（ドバイ）等で開催された国際見本市への出展、ロシアにおける市場調査・テスト輸出など、青森県産りんごを中心に輸出先国・地域を拡大する動きが活発化している（表Ⅱ－65）。

また、中国、香港、シンガポールで、各県の特徴ある産品を揃えた合同商談会が行われている。（表Ⅱ－66）

Ⅱ 農業・食品産業の持続的な発展

表Ⅱ-65

県段階における主な輸出促進の取組

県	主な実施主体	主な対象国・地域	主な品目	主な取組内容
青森	青森県、青森県農林水産物輸出促進協議会	アメリカ、中国、香港、ドイツ、ロシア、ドバイ、台湾	りんご、ながいも等	市場調査、テスト輸出、バイヤー招聘、商談、見本市出展、販売促進イベントの実施等
	(社)青森県物産協会	香港、台湾、タイ	農水産物	物産展
	青森県、(社)青森県りんご輸出協会	中国	りんご	市場調査、展示・販売イベント
岩手	岩手県	中国、台湾、マレーシア、タイ	農水産物、加工食品	市場調査、展示・販売イベント、商談会、日本食レストランメニュー提案等
宮城	宮城県、(社)宮城県国際経済振興協会	台湾	農水産物、加工食品	見本市出展
秋田	県産材海外需要開拓推進協議会	中国	木材製品	見本市出展、商談
	秋田県	台湾	農水産物・加工食品	試食・販売イベント、バイヤー招聘等
	秋田市、(社)秋田県貿易促進協会	ロシア(ウラジオストック)	農産物加工品、日本酒、ミネラル・ウォーター等	商談会
山形	山形県、山形県経済国際化推進協議会	台湾、香港、タイ		販売促進イベント
	山形県、山形県農林水産物・食品輸出促進協議会、山形県経済国際化推進協議会	香港、台湾	農水産物・加工食品	商談会、販売促進イベント
	全国農業協同組合連合会山形県本部	台湾、香港		展示・商談、テスト輸出
福島	福島県	中国	水産物・加工食品	ふくしま産品キャンペーン
	県内企業、農業団体等	香港	農産物	ふくしま物産フェア

表Ⅱ-66

県が合同で実施した輸出促進の取組

県	実施主体	主な対象国・地域	主な取組内容
青森、岩手、秋田	東北北三県、北海道シンガポール事務所	シンガポール	バイヤー招聘、商談会
岩手、宮城	宮城県、岩手県、(社)宮城県国際経済振興協会、(社)岩手県国際経済振興協会	中国	商談会
宮城、山形	宮城県、山形県、(社)宮城県国際経済振興協会、山形県農林水産物・食品輸出促進協議会、山形県経済国際化推進協議会	香港	試食会・商談会
東北6県	「東北フェアin上海」実行委員会	中国	試食会・商談会